別紙様式1

令和6年度　学校評価表　（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立第四中学校　　校番（24）

a 学校教育目標	夢と高い志を抱き、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像）社会に開かれた教育課程の実現 （生徒が学びたいと思う学校、保護者が通わせたいと思う学校、教職員が働きたい、学びたいと思う学校）

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	1月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	「学びの変革」の展開 （1）言語活動の充実 （2）授業改善の充実	学習の定着と言語能力の育成の充実	①モジュール学習での教科指導と家庭学習の一体化 ②言語活動カリキュラムによる言語能力の向上	・5教科前期（全国・NRT） ・5教科後期（定着度診断テスト）	107%	NRT 95% 全国 95%	定着度 90%	定着度 84.1%	B	【結果】 ・定着度診断テスト(県平均) 1年生：5教科とも県平均届かず 2年生：国語・社会が県平均クリア（10ポイント以上） 3年生：社会・理科が県平均クリア ・家庭学習時間（生徒アンケート結果） 肯定的評価：21% 【課題の分析】 ・各教科の復習と自主学習ノートを進めることで、課題解決を試みたが、十分な結果を得ることはできなかった。 ・基礎基本的な学力の定着と家庭学習が習慣化していないことが課題であるととらえている。	・基礎学力の定着を図るため、放課後のドリル学習（2年：社会・理科、1年：数学）を毎日実施した。その結果、指標としていた単元テスト「知識・技能」7割以上はほぼ達成した。どの学年も、「できた」「できる」の積み重ねによって、学習意欲の向上に、つながりつつある。 ・後期からは、「思考力・判断力・表現力」の育成に取り組んできた。学力調査結果から、問題の意図が読み取れず、「何を問われているのか」、「何を答えればよいのか」がわからない生徒が多数いることから、各教科で「問いを問う問題」を授業や試験問題に取り入れ、取り組んだ。 ・ドリル学習や「問いを問う問題」の実施によって全体の結果に大きな変化は見られないが、個の変容が見られつつある。今後も全教科において継続して取り組み、生徒の様子を見取りながら対応していく。	○			・放課後のドリル学習の取組が習慣化されると基礎学力が定着されると思った。 ・本を読む機会が少なく、家族や友人との会話で深く考えることが少なくなっていると思う。すぐにインターネットで答えの出る時代。大切な学習の取組の継続をお願いします。 ・家庭学習が、習慣化するよう達成感のある学習内容が提供できるとよいと思います。
			①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進	・QUの肯定評価率（学習意欲の項目） ・定着度診断テスト（5段階評定1と2の割合）	80% 30%以下	QU 80.5% 評定 30.4%	QU 77.3% 評定 36.3%	QU 96.6% 評定 82.6%	B	【結果】 ・学習意欲に関する肯定的評価は、学年別にみると1年は低く、2,3年生は高い。 ・5段階評定1と2の割合は、1,3年33%、2年40%であった。 【結果の分析】 ・固定化の傾向があるため、個別の対応が必要である。 ・調査結果の学年間の差が大きく、学習意欲が学力調査の結果に顕著に表れている。		○			
豊かな心の育成	「積極的な生徒指導」の推進 （1）生徒の関係性の調和	特別支援・教育相談の充実	①生徒意識調査（QU）を活用した学級集団の相互の関係性の向上	・QUの肯定評価率（クラスの中にいるとほっとして明るい気分になるの項目）	80%	QU 88.9%	QU 82.6%	QU 103%	A	【結果】 肯定的評価…82.6%（全校） 【結果の分析】 ・掃除や給食、体育の授業などで他学年と関わり、上級生に引っ張ってもらったり、集団の賑やかさや安心を感じている。 ・少人数であるが故の難しさはあるが、一人一人が大切にされる学級集団づくりが重要と考える。	・落ち着いて学校生活を送れるよう、教職員全体で、安心安全な学習環境をつくっていく。また、生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって活動できる行事や少人数を活かした行事を企画・運営するなど他学年との合同の活動を仕組むことで、集団や仲間の良さに気づいたり、リーダーシップを発揮したりすることで、よりよい関係づくりや、コミュニケーション力の育成を図る。 ・特別支援教育推進委員会を定期的に開催し、保護者・本人の思いに寄り添いながら、個別の生徒について支援や配慮の具体を協議する。また、関係機関等とも連携し、組織的支援を行っていく。	○			・少人数で難しいところもあるようですが、お互いの理解や先生方の対応により、落ち着いているので安心しました。 ・縦割りの合同の活動で学ぶことが多いと感じました。 ・不登校の生徒の対応をお聞きし、先生方のご努力の様子がわかり、地域でも見守りが大切だと思いました。 ・集団活動はとても大切ですが、先輩後輩の関係がきちんと保たれながら取り組んで欲しいと思います。
			①特別な支援等を必要とする生徒の地域や関係機関連携の充実	・関係機関連携対前年度比100	100%	125%	100%	100%	A	【結果】 ・関係機関との連携には至らなかった。 【結果の分析】 ・生徒の状況を把握しながら、関係機関との連携が必要と思われる生徒・保護者へのアプローチは行ったが、積極的に動くまでには至らなかった。		○			
信頼される学校	「開かれた学校づくり」	地域、保護者連携の充実	①入学説明会実施（オープンスクール）	・年間1回	100%		100%	100%	A	【結果】 ・2月4日に新入生説明会を行った。 【結果の分析】 ・年度当初の予定にそって行うことができた。	・細やかな連携を行うことで、小中連携を計画的に進めていく。 ・学校だよりを通して、地域に情報発信をしていく。 ・業務改善を推進し、特に繁忙期の改善について検討実施する。 ・業務の平準化を進めていく。	○			・小中の交流を実施され、四中の良さをアピールして、小学生が四中を選んでくれるようになれば良いです。 ・来年度もハイツ、須波地区へ吹奏楽部が出向いて地域住民との交流をして欲しい。子どもたちと触れ合う機会がなく、とても喜ばれています。 ・学校の情報発信を継続し、生徒たちのがんばっていることをアピールしてください。
			①働き方改革の推進	・月45時間以内の業務遂行	100%	100%	100%	100%	A	【結果】 ・月45時間以上の超勤は、該当なし。 【結果の分析】 ・時間を意識する雰囲気が定着している。					

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。